

『ラジオ・コバニ』上映会報告

2021年7月18日(日)『ラジオ・コバニ』上映会を開催しました。

岩手教育会館にて、75名が参加。

開会までの時間、岩手県ユニセフ協会 20 周年記念「20 周年のあゆみ」のDVDを流し、石橋百合子専務理事の主催者挨拶のあと上映。

3月に行なわれた「安田菜津紀さん講演会」でシリアのお話を聞き、今回はシリアを題材にした映画を鑑賞。この映画は、「イスラム国」



(IS)からの支配を脱したシリア北部の街コバニを舞台に、大学生のディロバンが手作りのラジオ局を始め、人々に希望をもたらしていく姿を収めたドキュメンタリー。



来場者は、マスク着用・検温・消毒・距離を開けて着席。空席にはユニセフニュースの表紙を利用。ロビーでは、ユニセフのポスター、支援グッズの展示。



～参加者の感想より～

人の命の尊さついにリアルに感じました。子どもも戦争にかり出されて無条件で尊い命が奪われて。日本にいて今まで気づけなかったけど、世界に目を向けるととても残酷だなと思いました。戦争をしてはいけないと思いました。(学生)

シリアの人々の生活が身近に感じられてなおさら戦争の哀しさが強く感じられた。(50代)

シリアの状況を実際はどうなのか、リアルに考えた事がなかったので、死体処理や戦闘のシーンは恐ろしかったです。自分が今、これからどう生きていくか、世界のことも視野に入れて考えたいと思いました。(20代)

ショッキングな映像はあったけれど、そのむごさを感じ取った後、そこで暮らす人たちの強さが強烈でした。死を目の前にしながらも、若い女性の強さというか動物的な本能が伝わってきて生きていこうとする明るさをも伝わってきて、戦争への怒りで胸が苦しかったです。(60代)

コバニの街が戦争によってすっかり破壊されてしまっていた。むごすぎる。このような街の人々が早く安心して暮らができる事を願う。ラジオという電波を使って、音楽を聴いたりしてそのときだけでもホッとする気持ちになれるだろう。ささやかな楽しみでも大きな力になっていると思った。(60代)

